# 2 年 次 開 講 科 目

科目名：コミュニケーションⅡ（聴き方）

単位及び時間数(配当年次)：1 単位 20 時間(2 年次後期)
授業目的及び到達目標：

目的)

1．聴き方訓練を通して、共感的理解の態度とその技術を体得する。
2．他者の話を傾聴し、人との関係の中で気づき学ぶことの出来る人になる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 20 時間 | 集中演習（聴き方訓練）<br>詳細については研修前にオリエンテーションを行ないます。 | グループセッション<br>ロールプレイ | 外部講師 |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| レポート | 100% | |

テキスト・参考文献

| 書名 | 出版社 |
|---|---|
| 特になし | |

受講上の注意

連続３日間の集中研修となります。
詳しいオリエンテーションを別途行います。
集中講義なので体調管理に十分留意して下さい。
後日配布する要項を参照し、忘れ物がないようにして下さい。

科目名：　栄養学

単位及び時間数：１単位 30 時間（２年前期）

授業目的及び到達目標：

人が生き、生活を営む上において栄養素の摂取は不可欠である。しかし、栄養素の過不足･アンバランスや体内での代謝異常などによる栄養機能の障害はいろいろな疾病を引き起こす。飽食の時代といわれる現在、食生活の変化と生活の合理化は疾病や死因を大きく変化させている。例えば、肥満、高脂血症、動脈硬化、糖尿病がそれである。本講では、人間の健康保持･増進にとっての栄養の意味、役割、栄養素が病気や治療に及ぼす影響について学び、人間としての食生活のあるべき姿を学ぶ。後半では病気と食事療法について学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 栄養学の歴史、人間栄養学について | 講義 | 外部講師 |
| 2 | 栄養状態の評価・判定　　－身体計測・臨床検査による－ | 講義 | |
| 3 | 栄養状態の評価・判定　　－臨床診査・食事調査による－ | 講義 | |
| 4 | 三大栄養素のはたらき | 講義 | |
| 5 | ビタミンのはたらき | 講義 | |
| 6 | ミネラル、食物繊維、水のはたらき | 講義 | |
| 7 | エネルギー代謝 | 講義 | |
| 8 | 栄養素の消化 | 講義 | |
| 9 | 栄養素の吸収 | 講義 | |
| 10 | 栄養素の体内代謝 | 講義 | |
| 11 | 栄養食事療法とは<br>栄養食事療法の実際 | 講義 | 管理栄養士 |
| 12 | 循環器疾患患者の栄養食事療法(高血圧症、うっ血性心不全)<br>消化器疾患患者の栄養食事療法(胃、大腸、肝、膵、胆) | 講義<br>講義 | |
| 13 | 栄養代謝性疾患患者の栄養食事療法(糖尿病、脂質異常症)<br>術前・術後の栄養管理(術前・術後の栄養管理の原則) | 講義<br>講義 | |
| 14 | 高齢者の栄養食事療法 | 講義(45 分間) | |
| 15(45 分) | 単位認定試験（45 分間） | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 外部講師　60%<br>管理栄養士　40%<br>の割合で試験を実施する。 | |

受講上の注意

複数の講師が担当するので、授業計画で確認しながら各々の講義に臨むこと。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| 外部講師 | 栄養学 | 医学書院 |
| 管理栄養士 | 栄養学 | 医学書院 |
| | 栄養食事療法 | 医学書院 |

## 科目名：社会福祉

**単位及び時間数(配当年次)：1 単位　30 時間　(2 年次前期)**

**授業目的及び到達目標　：**

目的：わが国の社会福祉制度・社会保障制度を学び、医療・看護との関連について理解する。生活支援について学び、看護師の役割を把握する。また、医療と福祉の連携の重要性について学習する。

目標：社会福祉制度および社会保障制度を理解する。社会福祉の実践と看護との関連を把握する。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉の定義と理念 | 講義 | 外部講師 |
| 2 | 社会福祉と医療 | 講義 | |
| 3 | 社会福祉制度 | 講義 | |
| 4 | 社会福祉の実践 | 講義 | |
| 5 | 社会福祉の歴史 | 講義 | |
| 6 | 社会保障の財政と社会福祉の実施体制 | 講義 | |
| 7 | 医療保障制度 | 講義 | |
| 8 | 介護保険制度 | 講義 | |
| 9 | 所得保障制度 | 講義 | |
| 10 | 生活困窮者支援 | 講義 | |
| 11 | 子ども家庭福祉 | 講義 | |
| 12 | 障害者福祉 | 講義 | |
| 13 | 高齢者福祉 | 講義 | |
| 14 | 地域福祉 | 講義 | |
| 15 | 保健・医療・福祉の連携 | 講義 | |
| | 単位認定試験(45 分間) | 筆記試験 | |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | |

受講上の注意

講義中に質問されたら、しっかり考えて必ず答えて下さい。
日ごろから、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどで、社会福祉に関する情報について関心を持って情報収集して下さい。

テキスト・参考文献

テキスト：　看護職をめざす人の社会保障と社会福祉　(株)みらい

## 科目名：公衆衛生学

**単位及び時間数：2 単位　30 時間　(2 年次後期)**

**授業目的及び到達目標　：**

疾病の発症は遺伝子の異常や微生物による特異的病因のみでなく、生活習慣や栄養、代謝、免疫能などの個人要因及び大気などの環境要因が複雑に絡まって発病にいたる。公衆衛生の目標は発症となる要因を明らかにすること、それも集団レベルで明らかにすることで、集団発症の予防を行おうとするものである。つまり、疾病予防ひいては健康増進を図ることにある。本講では、集団の健康評価の方法、様々な領域における健康の動向と現状を学び今後の課題を考える。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公衆衛生概論 | 講義 | 医師 |
| 2 | 第１章　公衆衛生のエッセンス | 講義 | |
| 3 | 第２章　公衆衛生の活動対象 | 講義 | |
| 4 | 第３章　公衆衛生のしくみ | 講義 | |
| 5 | 第４章　集団の健康をとらえるための手法ー疫学・保健統計 | 講義・演習 | |
| 6 | 第５章　環境と健康 | 講義・演習 | |
| 7 | 第６章　感染症とその予防対策 | 講義・演習 | |
| 8 | 第７章　国際保健<br>第 11 章 健康危機管理、災害対策 | 講義 | |
| 9 | グループ発表、まとめ１・2 | 講義 | |
| 10 | | 講義 | |
| 11 | 第８章　地域における公衆衛生の実践<br>公衆衛生看護とは　母子保健、成人保健、 | 講義 | 保健師 |
| 12 | 第 10 章　職場と健康<br>職場における健康　産業保健活動の展開 | 講義(45 分間) | |
| 13<br>14 | 第８章　地域における公衆衛生の実践<br>高齢者保健　精神保健、歯科保健、障害者保健・難病保健 | 講義 | 保健師 |
| 15 | 第９章　学校と健康<br>学校における健康とは、学校保健の展開<br>特別な支援を必要とする子どもたち | 講義 | 外部講師 |
| | 単位認定試験(45 分間) | 筆記試験 | すべての先生 |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 医師　60%<br>保健師　15%<br>保健師　15%<br>外部講師　10%<br>この割合で試験を実施する。 | |

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| 全担当者 | 公衆衛生 | 医学書院 |
| | 国民衛生の動向（医師のみ） | 厚生統計協会 |

## 科目名：総合保健医療と法

**単位及び時間数：1 単位　20 時間　(2 年次前期)**

**授業目的及び到達目標：**

看護をはじめ、医療という仕事は、人間の生命に直接関係するだけに、医療に携わる人々の資格や業務内容が厳格に規定される。看護に携わる者が国民の健康を守り、与えられた責務を正しく遂行するためには看護関係法令の理解が必要になる。本講義は、保健、医療、福祉に関する法体系、制度、サービスについて明らかにする。また、生活を取り巻く法律及び法律に裏づけされたサービスや事業は、保健医療に従事する人々がどのような法で守られ(縛られ)、その責任を負っているかを学んでいく。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1.法の概念 | 講義 | 事務局長 |
| 2 | 2.医事法－Ⅰ.医療法、医師法 | 講義 | |
| 3 | 3.医事法－Ⅱ.医療関係資格法 | 講義 | |
| 4 | 医療関係資格法 | 講義 | |
| 5 | 医療関係資格法 | 講義 | |
| 6 | 4.医事法－Ⅲ.医療を支える法<br>臓器の移植に関する法律<br>死産に関する規程<br>死体解剖保存法<br>5.医事法－Ⅳ.緊急時の看護・医療に関する法律 | 講義 | |
| 7 | 6.薬務法 | 講義 | 薬剤師 |
| 8 | 7.看護法<br>1）保健師助産師看護師法 | 講義 | 専任教員 |
| 9 | 2）看護師等の人権確保の促進に関する法律 | 講義 | |
| 10 | まとめ　　(45 分) | 講義 | |
| | 単位認定試験（45 分） | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | 事務局長・専任教員・薬剤師の割合　6：3：1　で試験を実施 |

テキスト・参考文献

テキスト：　健康支援と社会保障制度　[4]　看護関係法令　；医学書院

## 科目名：　治療検査論

**単位及び時間：1単位　30時間　(2年次前期)**

**授業目的及び到達目標：**

疾患や傷害の治療に対する各種療法や、診断や治療効果の判定を行う手段としての臨床検査を理解する。各種療法については、その目的と内容・方法、臨床検査についてはその種類とその目的、各検査の正しい検体の採取・保存方法および検査方法を学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 麻酔と救急 | 講義 | 医師<br>(麻酔科) |
| 2 | | 講義 | |
| 3 | | 講義 | |
| 4 | | 講義 | |
| 5 | 手術療法　1)目的・意義　2)外科診断法<br>3)外科手術手技・処置の基本<br>特殊栄養法　1.経皮内視鏡的胃瘻造設術<br>2.中心静脈栄養埋没型カテーテル設置 | 講義 | 医師<br>(外科) |
| 6 | | 講義 | |
| 7 | | 講義 | |
| 8 | 放射線療法　1)目的　2)種類とその特徴<br>3)適応疾患　4)放射線障害と放射線防御<br>5)放射線診断<br>(単純撮影、CT、血管撮影、MRI、PET、シンチグラム) | 講義 | 医学物理士 |
| 9 | | 講義 | |
| 10 | | 講義 | |
| 11 | リハビリテーション　1)目的<br>2)種類と特徴(運動療法、物理療法、作業療法、言語療法) | 講義 | 理学療法士<br>作業療法士 |
| 12 | | | |
| 13 | 臨床検査　1)検体検査:一般検査・血液検査・臨床化学検査<br>免疫血清検査・輸血検査・微生物検査<br>2)生理機能検査:心電図、ｽﾊﾟｲﾛﾒﾄﾘｰ、脳波、超音波 | 講義 | 臨床検査技師<br>3名 |
| 14 | | 講義 | |
| 15 | | 講義(45分) | |
| | 単位認定試験(45分間) | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 種別 | 割合 | | 詳細及び注意 |
|---|---|---|---|
| 筆記試験 | 麻酔科医師　25%<br>外科医師　20%<br>医学物理士　20%<br>理学療法士・作業療法士　15%<br>臨床検査技師3名　20% | の割合で試験を実施する。 | 試験の際、持ち込みは一切できません。 |

受講上の注意

複数の講師が担当するので、授業計画で確認しながら各々の講義に臨むこと。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| 麻酔科医師 | 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| 外科医師<br>医学物理士<br>理学療法士・作業療法士 | 治療法概説 | メヂカルフレンド社 |
| 臨床検査技師 | 臨床検査 | |

科目名：　疾病と治療Ⅲ（腎・泌尿器系/運動器系/女性生殖器系）

単位及び時間：1 単位　30 時間　(2 年次前期)

1. 腎泌尿器、運動器、女性生殖器の疾患の病態、症状、治療について理解できる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6 | 腎泌尿器<br>症状とその病態生理<br>検査と治療・処置　透析療法<br>疾患の理解　腎不全と AKI・CKD<br>ネフローゼ症候群　糸球体腎炎<br>尿路・性器の感染症 - 腎盂腎炎、膀胱炎<br>尿路の通過障害と機能障害 - 神経因性膀胱、尿失禁<br>尿路結石症<br>尿路・性器の腫瘍 - 腎がん、膀胱がん、前立腺がん<br>発生・発育の異常 - 先天異常、性分化異常 | 講義 | 泌尿器科医師 |
| 7<br>8<br>9<br>10 | 運動器<br>症状とその病態生理<br>診断・検査と治療・処置<br>疾患の理解　骨折ー骨折とは、<br>各種の骨折(上腕骨　橈骨　大腿骨　脊椎)<br>脱臼　神経の損傷 – 脊髄損傷、末梢神経損傷<br>筋・腱・靭帯などの損傷<br>骨・関節炎症性疾患–関節リウマチ　変形性膝関節症<br>骨腫瘍および軟部腫瘍 – 悪性骨腫瘍<br>脊椎の疾患 – 頚椎症、腰部脊柱管狭窄症、<br>椎間板ヘルニア、 | 講義 | 整形外科医師 |
| 11<br>12<br>13<br>14 | 女性生殖器<br>診察・検査と治療・処置<br>疾患の理解　膣の疾患 - 膣炎<br>子宮の疾患 - 子宮がん、子宮筋腫、子宮内膜症<br>卵巣の疾患 - 良性腫瘍、悪性腫瘍<br>月経異常・月経随伴症状、性感染症 | 講義 | 産婦人科医師 |
| 15 | 乳腺の疾患 - 乳ガン | 講義 45 分間 | 外科医師 |
| | 単位認定試験(45 分間) | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 泌尿器科　40%<br>整形外科　25%<br>産婦人科　25%<br>外科　10%<br>の割合で試験を実施する。 | |

受講上の注意

複数の講師が担当するので、授業計画で確認しながら各々の講義に臨むこと。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| 泌尿器科 | 成人看護学[8]　腎・泌尿器 | 医学書院 |
| 整形外科 | 成人看護学[10] 運動器 | |
| 産婦人科 | 成人看護学[9]　女性生殖器 | |
| 外科医師 | | |

科目名：　疾病と治療Ⅳ（歯・口腔/眼/皮膚/耳鼻咽喉）

単位及び時間(配当年次)：1 単位　30 時間　(2 年次後期)

1. 歯・口腔、眼、皮膚、耳鼻咽喉の疾患の病態、症状、治療について理解できる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4 | 歯科(8 時間)<br>歯・口腔の構造と機能<br>症状とその病態生理<br>検査と治療・処置<br>疾患の理解　　口腔ケア | 講義 | 歯科医師 |
| 5<br>6<br>7 | 眼科(6 時間)<br>症状とその病態生理<br>検査と治療　点眼法<br>疾患の理解　機能の障害 - 屈折異常、調節の異常、弱視<br>部位別の疾患 - 眼瞼の疾患、結膜の疾患<br>角膜の疾患、水晶体の疾患、<br>網膜・硝子体の疾患、緑内障 | 講義 | 眼科医師 |
| 8<br>9<br>10 | 皮膚科(6 時間)<br>皮膚の構造と機能<br>症状とその病態生理<br>検査と治療・処置<br>疾患の理解 | 講義 | 皮膚科医師 |
| 11<br>12<br>13<br>14<br>15(45 分) | 耳鼻科(9 時間)<br>耳鼻咽喉・頸部の構造と機能<br>症状とその病態生理<br>検査と治療<br>疾患の理解　耳疾患 - 外耳・中耳・内耳疾患<br>鼻疾患 - 外鼻・鼻腔・副鼻腔疾患<br>咽喉頭疾患 - 咽頭・唾液腺・喉頭疾患<br>気道・食道・頸部疾患と音声・言語障害 | 講義 | 耳鼻咽喉科医師 |
| | 単位認定試験（45 分間） | 筆記試験 | |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 歯科　25%<br>眼科　20%<br>皮膚科　25%<br>耳鼻咽喉科　30%<br>の割合で試験を実施する。 | |

受講上の注意

複数の講師が担当するので、授業計画で確認しながら各々の講義に臨むこと。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| 歯科医師 | 成人看護学[15]　歯・口腔 | 医学書院 |
| 眼科医師 | 成人看護学[13]　眼科 | |
| 皮膚科医師 | 成人看護学[12]　皮膚科 | |
| 耳鼻咽喉科医師 | 成人看護学[14]　耳鼻咽喉 | |

科目名：疾病と治療Ⅵ(精神疾患)

単位及び時間数(配当年次)：1 単位　15 時間　(2 年次前期)
授業目的及び到達目標　：　精神疾患の病態、症状・治療について理解できる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 第 1 章　精神医療・看護の対象者:精神(心)を病むということ | 講義 | 精神科医師 |
| 2 | 第 2 章　精神障害をもつ人の抱える症状と診断とための検査 | 講義 | |
| 3 | | 講義 | |
| 4 | | 講義 | |
| 5 | 第 3 章　主な精神疾患/障害 | 講義 | |
| 6 | | 講義 | |
| 7 | 第 4 章　精神疾患の主な治療法 | 講義 | |
| 8 | 単位認定試験(45 分間) | 筆記試験 | |

評価方法

| 種別 | 割合 | 評価及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | |

テキスト／参考文献

| 書名 | 出版社 |
|---|---|
| 精神障害を持つ人の看護 | メヂカルフレンド社 |

## 科目名：診療の補助技術ⅡA

**単位および時間数：1 単位　　15 時間　　（2 年次前期）**

**授業目的および到達目標**

目的：診療補助技術を安全・安楽かつ確実に実施する技術を学ぶための必要な知識を得る

目標：1）排泄に関する援助技術の基礎知識を学ぶ
　　2）与薬に関する援助技術の基礎知識を学ぶ
　　3）検査に伴う援助技術の基礎知識を学ぶ
　　4）診療の補助技術に伴うアセスメントや観察ができるような知識を学ぶ

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 排泄に関する処置<br>・排便を促す援助（浣腸、摘便） | 講義 | 専任教員 |
| 2 | 排泄に関する処置<br>・導尿　（一時的導尿、持続的導尿） | 講義 | |
| 3<br>4<br>5<br>6 | 与薬の技術<br>・与薬に関する基礎知識<br>（薬物療法の理解、看護師の役割、薬物療法を受ける患者の援助）<br>・様々な与薬方法の実際<br>①　経口与薬、口腔内与薬、直腸内与薬、皮膚用製剤、点眼、点入<br>②　注射法の基礎知識<br>皮下注射・皮内注射・筋肉内注射・静脈内注射<br>点滴静脈内注射・輸血療法 | 講義 | |
| 7 | 検査に伴う看護技術<br>・検査に伴う看護の役割<br>・血液検査<br>・尿検査 | 講義 | |
| 8 | 単位認定試験（45 分） | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | |

テキスト・参考文献

| |
|---|
| 基礎看護技術Ⅱ　　：メジカルフレンド社<br>必要に応じて資料を配布します |

## 科目名：診療の補助技術ⅡB

**単位および時間数：1 単位　　20 時間　　（2 年次前期）**

**授業目的および到達目標**

目的：診療補助技術を安全・安楽かつ確実に実施できるように、看護師に必要な知識・技術・態度を身につける

目標：1）排泄に関する処置の援助技術を理解する

2）与薬の基礎知識を学習、安全かつ正確に与薬を実施できるように理解する

3）採血に関する技術を理解する

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2（45 分） | ◉演習：浣腸・摘便の実施<br>＊A グループ、B グループで日程が分かれます | 演習 | 専任教員 |
| 3<br>4 | ◉演習：導尿の実施　＊A グループ、B グループで日程が分かれます | 演習 | |
| 5<br>6 | ◉演習：注射の準備　皮下注射の実施　筋肉注射の実施 | 演習 | |
| 7<br>8 | ◉演習：点滴静脈注射と静脈注射の実施<br>＊A グループと B グループで日程がわかれます | 演習 | |
| 9<br>10 | ◉演習：採血の実施　尿検査の実施 | 演習 | |
| | 単位認定試験（技術 45 分） | 評価 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 実技試験 | 100% | |

テキスト・参考文献

基礎看護技術Ⅱ　　：メジカルフレンド社
必要に応じて資料を配布します

注意事項

演習に参加するときは身だしなみに注意してください。
演習の準備、片付けは協力のうえ、各自が責任をもって行ってください。
事前学習の提出がない場合は授業を受けることができないので注意してください。

## 科目名：看護研究の基礎

**単位及び時間数（配当年次）：1 単位 30 時間（2年次前期）**

**授業目的及び到達目標**

看護研究は質の高い看護を提供していくために欠かせないものである。そして、自己の看護観を深め、自己の課題を明確にする機会となる。科学的に研究を遂行するためには、一定の基本的なプロセスを踏むことが必要である。この単元では、そのプロセスを紹介し、各段階で実施すべきことを理解する。研究の実際では、調査研究を中心に、その目的・方法・結果・考察を論文として形式にそってまとめ、発表することで研究的思考を養う。

| 回 | 授　業　内　容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1．看護研究の基本<br>1）研究とは何か　2）看護研究とは　3）リサーチクエスチョンをたてる<br>4）倫理上の留意点　5）文献の活用法 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3 | 2．研究の種類と方法<br>1）研究の種類　2）一般的な研究手順　3）臨床事例研究のポイント<br>4）調査研究のポイント　5）実験研究のポイント<br>6）倫理的・記述的研究のポイント | 講義 | |
| 4<br>5<br>6 | 3．論文の作成の仕方<br>1）研究論文の構成・書き方　2）図・表、文献の書き方　4）抄録の書き方<br>4．原稿のチェック<br>5．投稿原稿作成・学会発表時の注意 | 講義 | |
| 7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14 | 6．研究の実際（調査研究等）<br>※実際の研究を通し、日ごろの看護の学びから見出した疑問に対する、研究知見を得る。<br>1）研究疑問を見出し、リサーチクエスチョンをしぼる。<br>2）リサーチクエスチョンについて文献収集・検索を行う。（収集した穿孔研究、文献をリサーチクエスチョンに照らし合わせ、整理、分析、解釈する）<br>3）研究計画書を作成する。<br>4）研究方法にそってデータ収集し、分析する。<br>5）結果を出し、考察する。<br>6）論文を作成する。<br>7）発表する（スライド作成し口述発表、後、ポスター発表）。 | 課題学習グループ指導 | |
| 15 | 単位認定試験"50%評価割合分"（45 分）　※回数 1～6 の終了時点で実施する | 筆記試験 | |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 50% | 30 時間で 1 単位を認定する |
| 研究（論文作成・発表） | 40% | |
| 研究に対する姿勢・態度 | 10% | |

受講上の注意

本稿では実際の研究論文をできるだけ読むことをねらいます。図書室においてある最新の看護雑誌を参考に手に取って読んでみてください。

テキスト・参考文献

| 書名 | 著者 | 出版社 |
|---|---|---|
| 系統看護学講座　別巻　看護研究 | 坂下玲子　著 | 医学書院 |
| その他、講義中に参考書・副読本を紹介する。 | | |

科目名：地域・在宅看護総論Ⅱ

単位及び時間数：1 単位／30 時間　（2 年次前期）

授業目的及び到達目標：

地域で生活する人々のおかれている状況、健康上の問題を理解し、その人々の QOL を高めるため、日常生活行動を支援する方法や社会システムについて学ぶ。また、支援にあたっては価値観を尊重することの重要性を理解したうえで社会資源活用を考慮することや、多職種連携や、その人々を取り巻く人間関係の調整の必要性を理解する。医療・福祉・保健の役割を学習し、そのなかで看護師がどのような役割を担うのかを理解し、人々のニードに対応できる基礎的能力を養う。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 暮らしの基盤としての地域の理解 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | 地域・在宅看護の対象：地域・在宅看護の対象者 | | |
| 3 | 地域・在宅看護の対象：家族の理解 | | |
| 4 | 地域に暮らす対象者の理解と看護 | | |
| 5 | 地域における暮らしを支える看護 | | |
| 6 | 地域・在宅看護実践の場と連携 | | |
| 7 | おもな地域・在宅看護の実践の場 | | |
| 8 | 療養の場の移行時の看護：退院支援・退院調整 | | |
| 9 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：医療保険制度　医療提供体制 | | |
| 10 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：介護保険制度 | | |
| 11 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：訪問看護の制度 | | |
| 12 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：社会資源の活用 | | |
| 13 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：地域包括ケアシステム<br>地域包括支援センター | | |
| 14 | 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用：権利保障に関する制度 | | |
| 15 | まとめ　／　筆記試験 | | |

**評価方法**

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 90% | 試験の際、持ち込みは一切できません。 |
| レポート等の提出物 | 10% | 定められた期日までに提出した場合、得点となります。 |

**受講上の注意**

本講義では、講義ごとに自己の学習の振り返りと質問を兼ねた、講義振り返り表について各自記入を求めます。
地域・在宅看護論を理解する鍵は“生活”です。健康で毎日暮らしていると日々の何気ない日常に対して、その意味を捉えることはなかなかないと思います。暮らしとは生活するとはどういうことか、一緒に考えましょう。

**テキスト・参考文献**

系統看護学講座　地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤　医学書院
その他、必要に応じてプリントを配布します。

## 科目名：地域・在宅看護方法Ⅰ

**単位及び時間数：1 単位 15 時間　（2 年次前期）**

**授業目的及び到達目標：**

在宅看護は対象の生活の場に訪問して、健康問題をもつ人々の生活を支援しなければならない。本講は、在宅看護に必要な基本的知識・技術を学ぶ。

療養者や家族の家庭での過ごし方、生活習慣、介護の仕方を理解しながら、必要なものは、家庭にあるものを活用し、家族とともに創意工夫することを学ぶ。また、地域ケアに携わる人々の調整、看護の立場からの教育・指導・助言についても学習する。在宅での看護は、訪問時の判断・情報収集とその分析と早急な判断・行動が要求されることもふまえて学ぶ。

地域・在宅看護方法Ⅰでは在宅看護における看護過程の基本事項と事例展開について学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1．地域・在宅看護の展開<br>地域・在宅看護における看護過程 | 講義 | 訪問看護師 |
| 2 | 2．暮らしを支える看護技術<br>地域・在宅看護における看護師への暴力・ハラスメント | | |
| 3 | 3．地域・在宅における時期別の看護<br>・健康な時期の看護<br>・在宅療養準備期（退院前）の看護<br>・在宅療養移行期の看護 | | |
| 4 | ・在宅療養安定期の看護<br>・急性増悪期の看護<br>・終末期の看護（グリーフケアを含む）<br>・在宅療養終了期の看護 | | |
| 5 | 4．地域・在宅看護の事例展開<br>・医療的ケア児の事例展開<br>・脳卒中の療養者の事例展開 | | |
| 6 | ・慢性閉塞性肺疾患（COPD）の療養者の事例展開<br>・筋萎縮側索硬化症（ALS）の療養者の事例展開<br>・パーキンソン病の療養者の事例展開 | | |
| 7 | ・統合失調症の療養者の事例展開<br>・認知症高齢者の事例展開<br>・がん終末期の療養者の事例展開 | | |
| 8 | 単位認定試験(45 分) | 筆記試験 | |

**評価方法**

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100%で１単位、単位認定する。 | 試験の際､持ち込みは一切できません。 |

**テキスト・参考文献**

系統看護学講座　地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
その他、必要に応じてプリントを配布します。

## 科目名：地域・在宅看護方法Ⅱ

**単位及び時間数：1 単位 15 時間　（2 年次後期）**

**授業目的及び到達目標：**

在宅看護は対象の生活の場に訪問して、健康問題をもつ人々の生活を支援しなければならない。本講は、在宅看護に必要な基本的知識・技術を学ぶ。療養者・家族にとって日常生活援助がどれだけ負担なく快適にされるかは在宅療養の継続に重要である。

地域・在宅看護方法Ⅱでは日常生活の援助を学習し、“生活する”ことを支える看護方法の基礎的能力を養うことをねらいとする。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7 | 1．暮らしを支える看護技術<br>①暮らしの場で看護をするための心構え<br>②セルフケアを支える対話・コミュニケーション<br>③地域・在宅看護における家族を支える看護<br>④地域・在宅看護における安全をまもる看護<br>（感染予防も含む）<br>（火災の予防と対策、暴力・ハラスメントは除く）<br>⑤地域における暮らしを支える看護実践<br>・療養環境調整の関する地域・在宅看護技術<br>・活動・休息に関する地域・在宅看護技術<br>・食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術<br>（経管栄養、在宅中心静脈栄養法は除く）<br>・排泄に関する地域・在宅看護技術<br>（尿道留置カテーテル、ストーマの管理は除く）<br>・清潔・衣生活に関する地域・在宅看護技術<br>・呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術<br>（HOT、NPPV、TPPV、HMV は除く）<br>・与薬に関する地域・在宅看護技術<br>▹認知機能のアセスメントと援助技術<br>▹コミュニケーションの支援<br>▹在宅におけるエンドオブライフケア | 講義<br>演習 | 訪問看護師 |
| 8 | 単位認定試験(45 分) | 筆記試験 | |

**評価方法**

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100%で１単位、単位認定する。 | 試験の際､持ち込みは一切できません。 |

**テキスト・参考文献**

系統看護学講座　地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
その他、必要に応じてプリントを配布します。

## 科目名：地域・在宅看護方法Ⅲ

**単位及び時間数：1 単位 15 時間　（2 年次後期）**

**授業目的及び到達目標：**

在宅看護は対象の生活の場に訪問して、健康問題をもつ人々の生活を支援しなければならない。本講は、在宅看護に必要な基本的知識・技術を学ぶ。

地域・在宅看護方法Ⅲでは医療的処置の方法を学習し、在宅における医療ニーズの要望に応えられる基礎的能力を養うことをねらいとする。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7 | 1．暮らしを支える看護技術<br>①地域・在宅看護における安全をまもる看護<br>・療養者の暮らしを取り巻くリスクと安全対策<br>火災の予防と対策<br>②地域における暮らしを支える看護実践<br>・食生活・嚥下に関する地域・在宅看護技術<br>経管栄養、在宅中心静脈栄養法<br>・排泄に関する地域・在宅看護技術<br>尿道留置カテーテルの管理<br>ストーマの管理<br>・苦痛の緩和・安楽確保に関する地域・在宅看護技術<br>・呼吸・循環に関する地域・在宅看護技術<br>援助の方法　HOT、NPPV、TPPV、HMV<br>・創傷管理に関する地域・在宅看護技術 | 講義<br>演習 | 訪問看護師 |
| 8 | 単位認定試験(45 分) | 筆記試験 | |

**評価方法**

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100%で１単位、単位認定する。 | 試験の際､持ち込みは一切できません。 |

**テキスト・参考文献**

系統看護学講座　地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
その他、必要に応じてプリントを配布します。

科目名：地域・在宅看護方法演習

単位及び時間数：1 単位／30 時間　（2 年次後期）

授業目的及び到達目標：

ペーパーシュミレーションによる看護過程の演習によって、在宅看護に必要な情報・状況を把握する力、分析・解釈・問題抽出し、判断・解決力を鍛える。援助技術では、在宅での日常生活行動の援助技術について状況設定事例を基に演習する。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10 | ＊事例展開：在宅における療養者とその家族への支援を考える<br><br>・療養者本人、家族、環境という視点からのアセスメントと介入を考える。<br><br>計 20 時間 | グループワーク | 専任教員 |
| 11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ＊在宅療養における援助技術<br>１．「訪問看護を受ける療養者とその家族への援助」<br>演習内容：接遇，フィジカルアセスメント，療養者・家族からの情報収集、ケア計画と日常生活援助(家庭にある物品を用いて工夫する)の実施<br>方法：事例を学習し、ロールプレイをする<br>２．在宅における援助技術演習<br>・人工呼吸器をつけた療養者の足浴<br>・身体拘縮が強い療養者の陰部洗浄<br>計 10 時間 | 演習 | 専任教員 |

**評価方法**

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 看護過程 | 70% | 30 時間で 1 単位を認定<br>授業態度・レポート等の提出物も評価対象とする |
| 演習 | 30% | |

**受講上の注意**

＊事例展開：ペーパーペイシェントを用いて、訪問看護の事例展開を行う。
＊援助技術：居宅での看護を想定し、状況設定のもと演習を行う。

**テキスト・参考文献**

系統看護学講座　地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践　医学書院
ナーシンググラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　メディカ出版
その他、必要に応じてプリントを配布します。

科目名：　成人看護方法Ⅰ

単位及び時間数：　1単位　　20時間（2年次前期）

授業目的及び到達目標：

目的：1　理論の概念を通して、成人の健康レベルに対応した看護を理解できる。
　　2. 既習の理論を用いて、事例のアセスメントができる。

目標：　1)　健康の急激な破たんとその回復に必要な看護がわかる。
　　2)　障害がある人の生活を支援するために必要な看護がわかる。
　　3)　慢性疾患と共に生きる人を支援するために必要な看護がわかる。
　　4)　成人期で人生の最期のときを迎える人に必要な看護がわかる。
　　5)　各理論を用いて、事例のアセスメントができる。

| 回数 | 授 業 内 容 | 授業形態 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9 | 1. 健康の急激な破たんとその回復に必要な看護がわかる。：生体侵襲理論<br>2. 障害がある人の生活を支援するために必要な看護がわかる。：障害受容モデル<br>3. 慢性疾患と共に生きる人を支援するために必要な看護がわかる。：病みの軌跡<br>4. 成人期で人生の最期のときを迎える人に必要な看護がわかる。：死の受容過程<br>それぞれの理論を用いて、事例のアセスメントができる。 | 講義・GW | 専任教員 |
| 10 (45分)<br>(45分) | まとめ<br>単位認定試験 | 講義<br>筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 授業への参加・態度 | 20% | 出席や授業態度　GWでの態度も含む　課題があれば期日提出・内容も含む |
| 筆記試験 | 80% | 持ち込み不可 |

テキスト・参考文献

テキスト：成人看護学総論　医学書院（1年次に使用した教本）
　　臨床看護総論　医学書院

その他：必要に応じて資料を配布します。

## 科目名： 成人看護方法Ⅱ

**単位及び時間数(配当年次)：1 単位　15 時間　(2 年次前期)**

**授業目的及び到達目標：**

目的：1. 専門性の高い認定看護師の看護活動の実際を知り、看護の質の向上を思考する。
2. 専門職間の連携と協働の実際を知る。

目標：

1) 救命救急患者の特徴を知り、救命救急処置について学ぶ。
2) 集中治療を受ける患者の特徴を知り、援助方法について学ぶ。
3) ガン化学療法を受ける患者の特徴を知り、援助方法について学ぶ。
4) 緩和ケアにおける基礎知識と看護師の役割について学ぶ。
5) 感染症対策の基礎知識と看護師の役割について学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2 | 救急看護の基礎<br>救急医療の現状、救急看護の役割、患者発生時の看護<br>集中治療を受ける患者の看護<br>対象、環境、治療の特徴、援助について | 講義 | 認定看護師 |
| 3<br>4 | 化学療法を受ける患者の看護<br>化学療法の特徴、化学療法を受ける患者・家族への看護、援助 | 講義 | 認定看護師 |
| 5<br>6 | 緩和ケア<br>歴史と現状、チーム医療<br>身体的・精神的・社会的スピリチュアルケア、家族ケア | 講義 | 認定看護師 |
| 7 | 感染管理 | 講義 | 認定看護師 |
| 8(45 分) | 単位認定試験 | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | (救・集治療)先生　30%<br>(化学療法)　先生　30%<br>(緩和ケア)　先生　30%<br>(感染管理)　先生　10%<br>の割合で試験を実施する。 | |

受講上の注意

複数の講師による科目となります。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| (救・集治療)先生 | 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| | 臨床看護総論 | |
| (化学療法)先生 | 臨床看護総論 | |
| (緩和ケア)先生 | 緩和ケア | メディカ出版 |
| (感染管理)先生 | 臨床外科看護総論 | 医学書院 |

## 科目名： 成人看護方法Ⅲ

**単位及び時間数： 1 単位 30 時間 (2 年次前期)**

**授業目的及び到達目標:**

目的: 周手術期の対象を理解し、対象の健康上の問題を解決するための方法を学ぶ。

目標: 1) 手術を受ける患者の特徴を理解する。
2) 麻酔・術式における身体の侵襲がわかる。
3) 術後の合併症を予防し、早期発見するための援助の方法がわかる。
4) 周手術期における看護師の役割がわかる。
5) 手術を受ける患者や、その家族に及ぼす影響がわかる。

| 回数 | | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7 | | 手術時の看護・手術看護の概要<br>手術前の看護<br>手術中の看護 ― 局所・脊椎・硬膜下・全身麻酔<br>血栓予防と腹腔鏡<br>手術室における看護の展開<br>手術室の環境管理 | 講義 | 手術室看護師 |
| 8<br>9<br>10<br>11 | | 手術を受ける患者の看護(回復を促進するための看護、術後合併症)<br>開腹、腹腔鏡下の手術を受ける患者の看護(消化管)<br>(肝胆膵)<br>性・生殖器の手術を受ける患者の看護(乳ガン) | 講義 | 外科看護師 |
| 12<br>13 | | 〃 (前立腺ガン)<br>泌尿器の手術を受ける患者の看護(腎ガン、膀胱ガン) | 講義 | 泌尿器科看護師 |
| 14 | | 運動器の手術を受ける患者の看護(脊髄損傷) | 講義 | 整形外科看護師 |
| 15 | 45 分 | 〃 (腰椎椎間板ヘルニア) | | |
| | 45 分 | 単位認定試験 | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | (手術時の看護) 先生 50%<br>(手術・消化器他)先生 30%<br>(手術・泌尿器他)先生 10%<br>(手術・運動器疾患)先生 10%<br>の割合で試験を実施する。 | |

受講上の注意

複数の講師が担当します。
また、解剖生理学、疾患や病態についての復習をした上で授業に臨んで下さい。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| (手術時の看護)先生 | 臨床外科看護総論 | 医学書院 |
| (手術・消化器他)先生 | 臨床外科看護総論<br>成人看護学[5] 消化器<br>成人看護学[9] 女性生殖器 | |
| (手術・泌尿器他)先生 | 臨床外科総論<br>成人看護学[8] 腎・泌尿器 | |
| (運動器疾患)先生 | 臨床外科総論<br>成人看護学[10] 運動器 | |

科目名：　成人看護方法Ⅳ

単位及び時間数　：　1 単位　　30 時間　　(2 年次前期)

授業目的及び到達目標:

目的:　内科的に治療・処置・検査を受ける対象を理解し、対象が安全・安楽に治療・処置・検査を受けるための援助を学ぶ。

目標:　1)　治療・処置・検査を受ける患者の特徴を理解する。
　　2)　治療・処置・検査における目的と方法がわかり、対象への身体の侵襲がわかる。
　　3)　治療・処置・検査における合併症を予防し、早期発見するための援助の方法がわかる。
　　4)　治療・処置・検査における看護師の役割がわかる。
　　5)　治療・処置・検査を受ける患者や、その家族に及ぼす影響がわかる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6(45 分) | **治療・検査・処置を受ける患者の看護とその家族への援助**<br>消化器 内視鏡検査を受ける患者への看護<br>肝臓・胆のう・膵臓疾患の患者への看護<br>肝生検、TAE、PTCD/ENBD、ERCP<br>呼吸器疾患の患者への看護<br>気管支鏡、胸腔ドレナージ<br>循環器疾患の患者への看護<br>ペースメーカ治療、心不全 | 講義 | 内科看護師 |
| 7<br>8 | 慢性腎不全患者の看護とその家族への援助<br>透析療法(導入～維持) | 講義 | 透析看護師 |
| 9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14 | 造血器腫瘍の患者の看護　＊悪性リンパ腫(化学療法の実際)<br>内分泌疾患の患者の看護　＊バセドウ病(甲状腺クリーゼ)<br>代謝疾患の患者の看護　＊糖尿病<br>(インスリン療法、患者指導)<br>脳疾患の患者の看護　＊クモ膜下出血<br>(CT、MRI、脳脊髄液検査)<br>膠原病の患者の看護　＊SLE(ステロイド療法) | 講義 | 特定看護師 |
| 15 | 放射線療法を受ける患者の看護 | 講義 | 外来看護師 |
| 16(45 分) | 単位認定試験 | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | (消・呼・循の看護)先生　35%<br>(血・内・代・脳・膠の看護)先生　35%<br>(透析の看護)先生　20%<br>(放射線治療の看護)先生　10%<br>の割合で試験を実施する | |

受講上の注意

複数の講師が担当するので、自分自身で今、何の看護について学んでいるのかを、授業計画で位置づけを確認しながら、各々の講義に臨んで下さい。

また、解剖生理学、疾患や病態の復習を行い、予習として＊の部分は各教科書の末章にある「事例による看護過程の展開」を必ず読んで授業に臨んで下さい。

テキスト・参考文献

| 書名 | | 出版社 |
|---|---|---|
| (消・呼・循の看護)先生 | 成人看護学[2,3,5,6] | 医学書院 |
| (血・内・代・脳・膠の看護)先生 | 成人看護学[4,6,7,11,14] | |
| (透析の看護)先生 | 成人看護学[8]　腎・泌尿器 | |
| (放射線治療の看護)先生 | 臨床看護総論 | |

## 科目名 ： 成人看護方法演習（ 成人ケース ）

**単位及び時間数 :1 単位　 30 時間　 (2 年次後期)**

**ねらい**

成人期に多い疾患の事例を通してグループ学習を行い、アセスメント能力を高めることをねらいとする。
また、治療に伴う合併症の予防や看護が考えられる方法を学ぶ

**授業目的及び到達目標:**

目的　ゴードンの機能的健康パターンを用いて、看護過程の展開(看護計画まで)が一通りできる。

目標　1) 情報を整理・分類し、判断・解釈ができる。
2) 問題を抽出し、原因や関連因子や不足する情報を考える(統合)ことができる。
3) 問題を明確化(看護問題の統合)し、看護診断としてあげることができる。
4) あげられたいくつかの看護問題の優先順位を適切に考えることができる。
5) その人の期待される結果を看護目標としてあげることができる。
6) 看護目標を達成するための看護介入を考えることができる。
7) アセスメントされたことを看護計画に反映させることができる。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション　事例の説明 | 講義 | 専任教員 |
| 2 | | 演習・GW | |
| 3 | 病態関連図 | | |
| 4 | | | |
| 5 | 事例展開 | | |
| 6 | ゴードンの機能的健康パターンに基づき行う | | |
| 7 | 1. 情報の整理 | | |
| 8 | 2. 情報の分析・解釈・判断、統合 | | |
| 9 | 3. 看護問題の統合 | | |
| 10 | 4. 優先順位 | | |
| 11 | 5. 看護診断 | | |
| 12 | 6. 看護計画(看護目標、介入)立案 | | |
| 13 | | | |
| 14 | | | |
| 15 | | | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 事例展開用紙 | 90% | |
| 姿勢・態度 | 10% | |

受講上の注意

演習を主とする授業なので、授業時間は討議の時間とする。個々で学習をした上で授業に臨むこと。

テキスト・参考文献

テキスト:　ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断　NOUVELLE HIROKAWA
看護過程に沿った対象看護　　学研

科目名：老年看護方法Ⅰ

単位及び時間数(配当年次)：1単位15時間(2年次前期)

授業目的及び到達目標：

老年看護では老年期にある人の加齢変化や健康上のニーズに応じ、日常生活の援助を中心とした看護を行うことが求められる。そのためには高齢者の身体的な加齢変化と、日常生活動作や高齢者に生じやすい症状に焦点を置いたアセスメントの方法を理解し、老年期の人への基本的な日常生活援助の方法を学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ．高齢者のヘルスアセスメント<br>Ⅱ．高齢者の生活機能を整える看護<br>Ⅲ．健康逸脱からの回復を促す看護 | | | |
| 1<br>2<br>3<br>4<br>(45分) | 1．身体の加齢変化とアセスメント<br>皮膚とその付属器　視聴覚とその他の感覚<br>循環系　呼吸器系<br>消化器系　ホルモンの分泌<br>泌尿生殖器　運動系<br>2．症候のアセスメントと看護<br>発熱　痛み　脱水　嘔吐　倦怠感<br>3．高齢者の生活機能を整える看護<br>食事・食生活 | 講義 | 認定看護師 |
| 5<br>6<br>7<br>8<br>(45分) | 1．ヘルスアセスメントの基本<br>ヘルスアセスメントの枠組み<br>高齢者総合機能評価（CGA）<br>2．日常生活を支える基本的活動<br>3．排泄<br>4．清潔<br>5．生活リズム<br>6．コミュニケーション | 講義 | 看護師 |
| 1 | 評価 | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 認定看護師　50%<br>看護師　50%<br>この割合で試験を実施する | |

テキスト・参考文献

| |
|---|
| 老年看護学　：　医学書院<br>必要に応じて資料を配布します |

## 科目名：老年看護方法Ⅱ

**単位及び時間数(配当年次)：1 単位 30 時間(2 年次前期)**

**授業目的及び到達目標：**

老年看護では対象となる人を、健康を損ねている者として捉えるのではなく、疾患や障害を有している生活者として幅広く捉える。加齢変化をふまえ、生活機能の観点からアセスメントし、その人らしく生きていくための支援が大切である。そこで老年看護方法Ⅱでは医療的な面から高齢者に生じることの多い疾患や、治療に沿った看護、認知機能に障害を有する看護、さらには高齢者が生活する地域、病院、介護保健施設での看護や家族への看護、また、人生の終焉を看護師がどのように支えていくかなど具体的な看護を学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| | Ⅰ．高齢者の生活機能を整える看護　Ⅱ．健康逸脱からの回復を促す看護<br>Ⅲ．治療を必要とする高齢者の看護　Ⅳ．エンドオブライフケア<br>Ⅴ．生活・療養の場における看護 | | |
| 1<br>2<br>3<br>4 | 身体疾患を持つ高齢者の看護<br>脳卒中　糖尿病<br>慢性閉塞性肺疾患　パーキンソン病・パーキンソン症候群<br>インフルエンザ　肺炎<br>骨粗鬆症　骨折 | 講義 | 看護師① |
| 5<br>6 | 症候のアセスメントと看護<br>瘙痒　浮腫　褥瘡・スキン-テア | 講義 | 特定看護師 |
| 7<br>8<br>9<br>10 | 認知機能障害のある高齢者の看護<br>うつ　せん妄　認知症<br>エンドオブライフケア | 講義 | 看護師② |
| 11 | 入院治療を受ける高齢者の看護<br>退院調整・退院支援 | 講義 | 看護師③ |
| 12<br>13<br>14<br>15（45 分） | 治療を必要とする高齢者の看護<br>検査を受ける高齢者の看護<br>薬物療法を受ける高齢者の看護<br>手術を受ける高齢者の看護<br>生活・療養の場における看護<br>高齢者とヘルスプロモーション<br>保健医療福祉施設および居住施設における看護<br>治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 | 講義 | 専任教員 |
| 15(45 分) | 評価 | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 看護師①　30%<br>特定看護師　15%<br>看護師②　30%<br>看護師③　10%<br>専任教員　15%<br>この割合で試験を実施する | |

テキスト・参考文献

| | | |
|---|---|---|
| 老年看護学 | ： | 医学書院 |
| 老年看護　病態・疾患論 | ： | 医学書院 |
| 必要に応じて資料を配布します | | |

## 科目名：老年看護方法演習

**単位及び時間数(配当年次)：1 単位 30 時間(2 年次後期)**

**授業目的及び到達目標：**

高齢者に生じやすい疾患を事例とし、高齢者の身体的、精神的、社会的な変化をふまえた看護過程の展開を学ぶ。演習では、事例患者の疾患や加齢変化を考え、安全、安楽でもてる力を活用した日常生活の援助を実施し、演習を通して高齢者への援助方法や老年看護のあり方を考える。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10 | ○ゴードンの機能的健康パターンを用いて高齢者に生じやすい事例の看護過程を展開する<br><br>オリエンテーション　事例の説明<br><br>情報の整理・解釈・分析<br>看護診断<br>優先順位<br>成果/目標<br>看護計画 | グループワーク<br>個人学習 | 専任教員 |
| 11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ○事例をもとにした高齢者への援助の実際<br>疾患あるいは障害がある高齢者への日常生活援助を考える<br><br>○高齢者へのケアを考える | 演習<br>グループワーク | 専任教員 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 老年看護過程 | 70% | 30 時間で 1 単位を認定<br>授業中の姿勢態度、レポートの提出をもって評価とする |
| 演習 | 30% | |

受講上の注意

看護過程、演習は受講前にそれぞれオリエンテーションを実施します
必ず自己学習をしたうえで授業に臨んでください
グループワークでは自分の意見や考えをきちんと伝えられるようにしてください

テキスト・参考文献

老年看護学　：　医学書院
老年看護　病態・疾患論　：　医学書院
その他、必要に応じて資料を配布します

科目名：小児看護方法Ⅰ

単位及び時間数：１単位 15 時間(2 年前期)

授業目的及び到達目標：

既習の知識を活用し、成長発達過程にある小児期における健康諸問題にはどのようなことがあるのか、疾病の経過から看護の特徴を知り、健康障害をもつ小児・家族への関わり方を学ぶ。

一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していくには科学的根拠に裏づけされた看護実践能力を習得する必要がある。子どもの発達段階をふまえどのような方法があるのか学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 病気・障害をもつ子どもと家族の看護 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3 | 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護<br>（入院・外来・在宅療養・災害時における子どもと家族の看護） | 講義 | |
| 4<br>5 | 子どもにおける疾病の経過と看護<br>（慢性期、急性期、周手術期、終末期） | 講義<br>GW | |
| 6<br>7 | 症状を示す小児の看護<br>１．不機嫌　２．啼泣　３．痛み<br>４．呼吸困難　５．痙攣　６．発熱<br>７．嘔吐　８．下痢　９．便秘　１０．脱水 | 講義 | 看護師長 |
| 試験 | 単位認定試験 | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 看護師長　30%　専任教員　70%<br>合計 100% | |

テキスト・参考文献

小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院）
その他、講義の中に参考図書を紹介する。

科目名：小児看護方法Ⅱ

単位及び時間数：１単位 30 時間(2 年前期)

授業目的及び到達目標：

子どもは発達していく存在であり、年齢や健康レベルにかかわらず、権利を有し行使することができる主体である。また、一人ひとりの子どもの権利を擁護し、子どもに安全で安楽なケアを提供していくには、科学的根拠に裏づけされた看護実践能力を習得する必要がある。

子どもの権利の擁護や子どもの発達を重視した小児看護技術を理解し、治療、処置、検査を受けながら入院生活を送る患児や家族に与える影響について学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7 | 小児看護技術<br>1. 食事の援助技術（経管栄養法）<br>2. 排泄の援助技術（浣腸）<br>3. 清潔・衣生活の援助技術（洗髪）<br>4. 呼吸・循環を整える技術<br>（ネーゲルハイフロー、吸引、吸入、体温調整、※保育器含む）<br>5. 与薬の技術（経口与薬、注射、輸液管理）<br>6. 救急救命の技術（誤飲、熱傷）<br>7. 症状・生体機能の管理技術<br>（バイタルサイン測定、検体採取、検査、身体計測） | 講義 | 小児科<br>看護師① |
| 8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15（45 分） | 主たる疾患のある患児の看護<br>血液・造血器疾患（ITP・白血病・血友病患児の看護）<br>呼吸器疾患（肺炎患児の看護）<br>アレルギー疾患（気管支性喘息・アトピー性皮膚炎患児の看護）<br>先天性・後天性疾患<br>（ファロー四徴侯・心室中隔欠損症・MCLS 患児の看護）<br>手術適応疾患（腸重積症・肥厚性幽門狭窄症患児の看護）<br>腎・泌尿器疾患（急性・慢性腎炎、ネフローゼ患児の看護）<br>栄養・代謝疾患（肥満・糖尿病患児の看護）<br>神経疾患（てんかん発作・熱性けいれん・髄膜炎の患児の看護） | 講義 | 小児科<br>看護師② |
| | 単位認定試験（45 分） | 筆記試験 | 全担当者 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 看護師①　50%　看護師②　50%<br>合計 100% | |

テキスト・参考文献

小児臨床看護各論　（医学書院）
小児看護技術　（メディカ出版）
その他、講義の中に参考図書を紹介する。

科目名：小児看護方法演習

単位及び時間数：１単位 30 時間（2 年後期）

授業目的及び到達目標：

子どもを取り巻く生活環境、成長発達の段階をふまえた個別看護が展開できることをねらう。具体的事例を提示し、看護過程を用いて、観察力、解釈・分析力、判断・問題解決の能力を育てる。

技術演習では、患児と家族にどのように関わっていけばよいのか、またどのような方法で患児や家族から情報をとれば良いのか、実習現場を再現してシミュレーション課題に基づき、小児特有の看護技術を習得する。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | Ⅰ　オリエンテーション・事例の説明 | 講義 | 専任教員 |
| 2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10 | Ⅱ　事例の看護過程を展開する<br>１、情報の整理　情報の分析解釈<br>２、問題の抽出<br>３、優先順位とその根拠<br>４、看護介入 | ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ<br>自己学習 | 専任教員 |
| 11<br>12<br>13<br>14<br>15 | Ⅲ　小児の看護技術<br>シミュレーション課題に基づき、<br>模擬患児のバイタルサイン測定を行う | 演習 | 専任教員 |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| ＜看護過程＞<br>事前学習・レポート・演習に対する姿勢・態度 | 70% | 看護過程 70%のうち、6 割に満たない場合は看護過程の再評価を行う |
| ＜技術演習＞<br>演習での学び及び気づきレポート | 30% | |

テキスト・参考文献

小児看護学総論　小児臨床看護総論（医学書院）
小児看護技術（メディカ出版）
その他、演習中に参考図書を紹介する。

## 科目名：母性看護学総論

**単位及び時間数（配当年次）：1 単位　30 時間　（2 年次前期）**

**授業目的及び到達目標**

母性の概念および母性の特性や発達段階に応じた女性の健康と健康問題を通して、母性看護に必要な知識を学ぶ。また母性看護を学ぶにあたって、母子保健統計や法律・施策などからも看護のありかたを考えることができる。

| 回 | 授　業　内　容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2 | Ⅰ.リプロダクティブ・ヘルスの基礎<br>1．リプロダクティブ・ヘルスにかかわる概念<br>2．人の発生のメカニズム<br>1）妊娠の成立 | 講　義 | 専任教員 |
| 3<br>4 | Ⅱ．ウィメンズヘルスの基礎<br>1．女性のライフサイクルとライフステージ<br>2．女性のライフステージと心身の健康の特徴<br>1）思春期　2）成人期　3）更年期　4）老年期 | 講　義 | |
| 5<br>6 | Ⅲ．対象の理解と実践の基盤<br>1．親性・母性・父性<br>2．母子相互作用・愛着形成と親役割<br>3．女性・家族を中心としたケア | 講　義 | |
| 7<br>8 | Ⅳ．母子保健をめぐる動向と制度<br>1．母子保健統計<br>2．法律と施策 | 講　義 | |
| 9<br>10 | Ⅴ．リプロダクティブ・ヘルスにおける倫理<br>1．看護実践における倫理的課題<br>2．女性の選択と意思決定プロセスにおける支援 | 講　義 | |
| 11<br>12<br>13<br>14 | Ⅵ．リプロダクティブ・ヘルスにおける看護実践<br>1．不妊治療後に妊娠・出産した女性と家族への看護<br>2．先天異常を持つ子どもを出産した女性と家族への看護<br>3．周産期に子供を亡くした女性と家族への看護<br>4．メンタルヘルスに問題を抱える女性と家族の支援<br>5．ドメスティック・バイオレンスと被害者と性暴力被害者への支援<br>6．子ども虐待の予防と早期発見<br>7．在日外国人の母子保健<br>8．災害時における女性と妊産婦・新生児への支援 | 講　義<br>グループワーク | |
| 15 | まとめ（45 分） | 講義 | |
| | 単位認定試験（45 分） | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 90% | 授業、グループワーク時の姿勢・態度、レポート等の提出物、出席状況を加味する。 |
| レポート等 | 10% | |

テキスト・参考文献

| |
|---|
| 母性看護学Ⅰ　概論；医歯薬出版<br>母性看護学Ⅱ　周産期各論；医歯薬出版 |

## 科目名：母性看護方法Ⅰ

**単位及び時間数（配当年次）：１単位　20 時間　（2 年次後期）**

**授業目的及び到達目標：**

妊娠期の妊婦および家族について、妊娠期の身体的変化、心理・社会的変化を理解し、そのうえで、妊婦および胎児のアセスメント、妊婦の保健指導、家族を含めた看護について学ぶ。また、ハイリスク妊娠、妊婦の異常について、その要因およびハイリスク妊婦の看護について学習する。分娩期の産婦の看護については、分娩の経過に伴う身体的変化および、心理社会的変化を理解し、アセスメントおよび援助の実際を学ぶ。また、産婦におこる問題（分娩経過における異常・看護上の問題）について理解し、健康状態のアセスメントと看護について学ぶ。

| 回数 | 授　業　内　容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5 | Ⅰ．妊娠期の看護<br>１．妊娠経過のアセスメントに必要な知識と技術<br>妊娠期の身体的特性・心理的特徴<br>２．妊娠経過のアセスメント<br>３．妊娠期の健康課題と看護<br>１）妊娠期の看護とは<br>２）健康状態を保持・増進するための看護<br>３）妊娠期に予測される問題と看護<br>４）出産準備への看護（出産準備教育）<br>Ⅱ．妊娠期に起こりうる正常からの逸脱<br>１．ハイリスク妊娠について<br>２．ハイリスク妊婦の看護<br>３．妊娠期の異常 | 講義 | 助産師 |
| 6<br>7 | Ⅲ．分娩期の看護<br>１．分娩の要素<br>２．分娩の経過<br>３．産婦の心理・社会的変化<br>４．産婦・胎児、家族のアセスメント<br>５．産婦と家族の看護 | 講義 | |
| 8<br>9<br>10 | Ⅳ．分娩期に起こりうる正常からの逸脱<br>１．分娩時の異常<br>２．胎児付属物の異常<br>３．産科処置と産科手術<br>４．異常のある産婦の看護<br>５．異常分娩時の産婦の看護<br>６．分娩時異常出血のある産婦の看護 | 講義 | |
| | 単位認定試験(45 分) | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割　合 | 詳　細 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | 20 時間で１単位を認定 |

テキスト

| |
|---|
| 母性看護学Ⅱ　周産期各論；医歯薬出版<br>母性看護技術　母性看護学③；メディカ出版 |

## 科目名：母性看護方法Ⅱ

**単位及び時間数（配当年次）：１単位　20 時間　（2 年次後期）**

**授業目的及び到達目標：**

産褥期の看護では、健康な母子の看護方法、正常からの逸脱、異常に対する看護を理解する。産褥期は生理的現象であるが、心身共に変化が大きく日常生活のあり様いかんでは疾病（異常）の誘因にもなりかねない。母親役割の獲得や家族関係の再構成など、子どもを迎えた褥婦・家族の心理社会的な変化とそのアセスメントについて学ぶ。新生児の看護では出生を境にした、胎児から新生児への生活環境および、生理的変化を理解し、児の健康な発達を援助する看護について学ぶ。また、新生児の異常とその診断・アセスメント、医学的管理と看護について学習する。

| 回数 | 授　業　内　容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5 | Ⅰ．産褥期の看護<br>１．産褥経過<br>１）産褥期の身体的変化<br>２）産褥期の心理・社会的変化<br>２．産褥経過のアセスメント<br>３．産褥期のニーズ・健康課題と看護<br>１）復古に関する看護<br>２）母乳育児に関する看護<br>３）退院後の生活調整への支援<br>４）家族のニーズと健康課題<br>５）産褥期に予測される問題と看護<br><br>Ⅱ．産褥期に起こりうる正常からの逸脱<br>１．産褥期の異常<br>２．異常のある褥婦の看護 | 講義 | 助産師 |
| 6<br>7<br>8<br>9<br>10 | Ⅲ．新生児の看護<br>１．新生児の生理<br>２．新生児のアセスメント<br>３．新生児の看護<br><br>Ⅳ．新生児期に起こりうる正常からの逸脱<br>１．新生児の異常<br>２．異常のある新生児の看護 | 講義 | |
| | 単位認定試験（45 分） | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割　合 | 詳　細 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 100% | 20 時間で１単位を認定 |

テキスト

| |
|---|
| 母性看護学Ⅱ　周産期各論；医歯薬出版<br>母性看護技術　母性看護学③；メディカ出版 |

## 科目名：母性看護方法演習

**単位及び時間数(配当年次)：１単位　30 時間　（2 年次後期）**

**授業目的及び到達目標：**

本講では事例をあげ、生理的変化の助長と健康上の問題を判断する力を養い、問題解決に対する援助（指導・助言を含む）を学ぶ。

また、妊産褥婦、新生児に適した看護技術の提供ができるよう母性看護に特有の技術、産褥体操、妊婦体操、乳房マッサージ、悪露交換、新生児の観察・沐浴等を援助技術として演習する。さらに、妊婦体験をとおし、妊婦をイメージ化し、妊娠中の日常生活行動について考えることができる。

| 回 | 授　業　内　容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | Ⅰ.事例の説明　/　オリエンテーション | 講　義 | 軽本 |
| 2<br>～<br>10 | Ⅱ.ゴードンに沿って、事例の看護過程を展開<br>1. ゴードンの機能的健康パターンの分類、情報分析<br>①健康知覚―健康管理パターン<br>②栄養―代謝パターン　③排泄パターン<br>④活動―運動パターン　⑤睡眠－休息パターン<br>⑥自己知覚―自己概念パターン<br>⑦役割―関係パターン<br>⑧性―生殖パターン<br>⑨コーピングーストレス耐性パターン<br>2. 優先順位<br>3. 看護診断<br>4. 看護目標・看護介入立案 | グループ討議<br>自己学習<br>個人指導 | 専任教員 |
| 11<br>～<br>14 | Ⅰ．妊婦の健康維持のための看護技術<br>１．妊婦体験を通した日常生活動作<br>２．妊婦体操<br>３．妊婦腹帯の巻き方 | 演　習 | 専任教員 |
| | Ⅱ．褥婦の看護に関わる看護技術<br>１．子宮復古のアセスメントと子宮底の輪状マッサージ<br>２．悪露交換<br>３．乳房マッサージ<br>４．産褥体操 | 演　習 | |
| | Ⅲ．新生児の看護に関わる看護<br>１．抱き方、寝かせ方<br>２．沐浴の仕方 | 演　習 | |
| 15 | Ⅳ．評価 | 実技試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 割　合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 事前学習・演習に対する姿勢・態度<br>課題に対する提出物 | 1 回～10 回　70% | ・左記の割合で合計し、100 点満点とする。<br>・沐浴時の評価時、安全面に問題があった場合、点数に関係なく沐浴の再評価を行う。 |
| 沐浴、レポート<br>演習中の姿勢・態度 | 11 回～14 回　30% | |

テキスト

| |
|---|
| 母性看護学Ⅰ　概論；医歯薬出版 |
| 母性看護学Ⅱ　周産期各論；医歯薬出版 |
| 母性看護技術　母性看護学③；メディカ出版 |

科目名：精神看護学総論

単位及び時間数(配当年次)：1単位30時間（　2年次前期 ）

授業目的及び到達目標：

目的：　精神の健康とその障害について、基本的知識を理解することができる。

目標：　1　精神の健康や障害、現代社会におけるさまざまな心の健康・問題について理解する。

2　ライフサイクルに伴うストレスとその対処について理解する。

3　精神障害者に関連する歴史変遷と関連する法律、人権擁護について理解する。

4　地域で過ごす人を支える精神保健活動について理解する。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当 |
|---|---|---|---|
| 1 | 精神看護学で学ぶこと<br>現代の課題と基本的な考え方について | 講義 | 専任教員 |
| 2 | 精神の健康と精神障害について<br>・心の仕組みについて（心の機能と発達）<br>・精神力動論　対処機制 | 講義 | |
| 3<br>4 | 精神の健康と精神障害について<br>・精神保健の考え方<br>・ストレスと健康の危機について<br>1）ストレスとコーピング　　2）発達的危機・状況的危機<br>3）危機理論と介入　4）心的外傷体験　5）リカバリーとレジリエンス | 講義 | |
| 5 | 精神保健と社会（家庭・学校・職場） | 講義 | |
| 6<br>7 | 精神保健医療福祉対策について（背景と対策について）<br>①自殺・うつ病　②薬物依存・アルコール依存症　③認知症 | ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ<br>発表 討議 | |
| 8 | 精神障害者の処遇の歴史（欧米・日本の精神医療） | 講義 | |
| 9 | 患者の権利擁護について<br>・入院患者の基本的な処遇　・精神医療審査会について<br>・精神保健福祉法における「通信・面会の自由について」<br>精神保健福祉法に基づいた入院形態<br>長期入院患者の退院支援について | 講義 | |
| 10<br>11 | 精神障害者の生活／自立を支える法律について　（社会資源の活用）<br>・障害者基本法、障害者総合支援法、精神保健福祉法<br>個別の課題に対応した法律（発達障害者支援法、医療観察法）<br>保健所・市区町村・精神保健福祉センターの役割について | 講義 | |
| 12 | 精神障害者に対する倫理について（事例検討） | 講義<br>ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ | |
| 13<br>14 | 精神に疾患を抱えた人の理解<br>患者の病気体験の理解　患者への支援について | DVD 視聴<br>ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ | |
| 15 | 単位認定試験（45分）　　まとめ（45分） | 筆記試験 | |

評価方法

| 評価種別 | 筆記試験／提出物、授業への取り組み、出席状況　等 | 100% |
|---|---|---|

テキスト

| 精神看護Ⅰ（ヌーヴェルヒロカワ）　　参考）精神看護Ⅱ（ヌーヴェルヒロカワ）　看護倫理(医学書院) |
|---|

科目名：精神看護方法　Ⅰ

単位及び時間数(配当年次)：１単位 30 時間(2 年次後期)

授業目的及び到達目標　：

精神看護学の対象は、心(精神)の健康・不健康を問わず全ての人間であり、人間が存在する場には精神看護があるといっても過言ではない。人がその人らしく生きるには、人とのつながりが不可欠である。対象へのアプローチ、治療的関係の築きかたを通して、人間という存在の脆弱さや人間関係の重要性などについての理解を深め、また、心の健康や精神障害に関する知識やスキルを学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7 | 入院・療養生活者の精神の健康への援助<br>１）急性・重症患者の心の健康／手術と心の健康<br>２）生活習慣病と心の健康<br>３）慢性期と心の健康（後遺症・中途障害者等）<br>４）女性と心の健康<br>５）小児の心の健康<br>６）高齢者と心の健康<br>７）在宅ケアと心の健康<br>８）ターミナルケア　　グリーフケア<br>９）患者を支える家族のこころの健康について | 講義 | 認定看護師 |
| 8 | リエゾン精神看護について<br>精神看護の専門看護師の活動と役割、機能について<br>病気と心理社会的反応について | 講義 | 専任教員 |
| 9<br>10 | 人間関係論について<br>患者―看護師関係の理解について<br>対人関係成立への援助について<br>コミュニケーション技法（共感、傾聴　など）<br>治療的関係について | | |
| 11<br>12 | 精神看護過程の基本<br>セルフケア理論について<br>BPS（バイオ・サイコ・ソーシャル）モデル<br>クライシスプランについて<br>オープンダイアローグについて | | |
| 13<br>14 | 看護場面における自己の振り返りについて<br>プロセスレコードの活用とロールプレイ | 講義<br>グループワーク | 専任教員 |
| 15 | まとめ | 講義 | |
| | 試験(全担当者)　　45 分 | | |

受講上の注意

精神を病むということは、いろんな状況下で偶発的にも起こりえるものであるという認識を持ってもらいたい。また、精神疾患患者だけでなく、あらゆる対象と関わりをもつ機会の多い看護師として、普段の自分自身の人への関わり方を振り返る機会にしてもらいたい。

評価方法　筆記試験（認定看護師：50 点／専任教員：50 点）　評価は出席状況・態度　提出物も加味して行う。

テキスト・参考文献

『精神看護学Ⅰ』－精神保健学、『精神看護学Ⅱ』－精神臨床看護学　　(ヌーヴェルヒロカワ)

科目名：精神看護方法 Ⅱ（精神に疾患を持つ対象）

単位及び時間数(配当年次)：１単位 30 時間（2 年次後期）

授業目的及び到達目標：

この科目では精神科で治療を受けている患者の看護について学ぶ。

対象が体験している事柄は、実は私たちにはほんの一部しか分からないことかもしれない。それ故に対象者に起っている事象を知識と合わせながら想像し、少しでも理解しようと努めることがまず大事なことである。それには、看護に必要な知識を持つとともに、その症状や治療が対象の日常生活にどう影響し、どう関わっていけばいいのか、また対象がもつ日常生活能力に対し、どう働きかけていけばいいのかなど看護援助の基本について学ぶ。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2 | 精神を障害された人の看護に共通する基本的援助を理解する<br>精神を病む人への看護援助の基本<br>1）入院時の看護<br>2）日常生活援助について<br>3）安全管理について | 講義 | 精神科看護師 |
| | 基本的援助技法について<br>1）社会生活適応への援助技術<br>①支持的精神療法について　②SST<br>③精神科作業療法　④認知行動療法 | | |
| 3 | 精神を障害された人の看護に共通する基本的技術を理解する<br>回復過程に応じた看護<br>1）急性期・回復期<br>2）慢性期<br>3）社会（地域）復帰準備期／退院 | | |
| 4<br>5<br>6 | 症状に応じた看護<br>1）幻覚・妄想状態の患者の看護<br>2）抑うつ状態の患者の看護<br>3）興奮状態の患者の看護<br>4）強迫行為の患者の看護<br>5）依存状態の患者の看護<br>6）不安状態の患者の看護<br>7）意欲減退状態の患者の看護<br>8）自殺企図、自傷行為のある患者の看護<br>9）攻撃的行動のある患者の看護<br>10）医療観察法で入院した患者の看護　等 | | |
| 7 | 事例を通じて看護を理解する<br>1）統合失調症<br>2）気分障害<br>3）認知症 | | |
| 8 | 認定試験　100 点満点　試験時間 45 分 | 試験 | |

評価方法　筆記試験　（出席状況・態度を加味する）

テキスト・参考文献

川野雅資編『精神看護学Ⅱ』－　精神保健学〔第４版〕(ヌーヴェルヒロカワ)

## 科目名：精神看護方法演習

**単位及び時間数(配当年次)：1 単位 30 時間(2 年次後期)**

**授業目的及び到達目標：**

1．ケーススタディ（20 時間）

目的）統合失調症により精神機能（感情や思考、行動など）に変化をきたした患者に対し、日常生活への影響やその人らしい生活の支援について理解する。

目標）

1．統合失調症の治療や看護の必要性を理解する。

2．精神に障害があっても社会生活者としてとらえ、精神症状、セルフケア能力に応じた看護が考えられる。

2．地域生活支援について（10 時間）

目的）近年の精神保健の施策は「入院医療中心から地域生活中心へ」という考えのもと精神科病床の削減、地域支援の充実など様々な取り組みが行われています。疾患や障害があることはその人の全てではなく、その人を構成する一部と考え、生きづらさを抱えながらも地域で生活し、その人らしさを大切に生活されています。当事者の地域生活支援を実現させるために、地域での暮らしに着目し看護のあり方について考える機会とする。

目標）障害を抱えながらも日々の生活を送るために地域で支える支援について理解する

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 10 回<br>計 20 時間 | ケーススタディ<br>「統合失調症患者の自立・自律に向けて」の事例展開を行う。<br>内容）疾患の理解、患者理解（情報の整理と解釈）、看護の方向性を考える。 | 個別または、グループワーク | 専任教員 |
| 10 時間 | 地域生活支援について<br>・地域生活支援の意味することについて考える。<br>・実際の場面を見学し、精神に障害を抱える方の自立や地域で生活することの意味を考える | 施設見学<br>グループでの学びの発表 | 専任教員 |

受講上の注意

ケーススタディについて

精神の疾患、精神看護学総論、精神看護方法の講義内容の復習と教本・資料を参考にすること。

評価方法

| 評価種別 | 割　合 | 詳　細 |
|---|---|---|
| 事例展開 | 60% | 提出されたケーススタディの評価<br>姿勢・態度 |
| 地域生活支援について | 40% | GW と課題提出にて評価 |

## 科目名：災害看護と国際看護

**単位及び時間数　(配当年次)：1 単位 15 時間　（2年次後期 ）**

**授業目的及び到達目標：**

目的：災害によって人々の健康と生活に及ぼす影響を最小限にするための看護活動と、国内に限らずグローバルな視点で看護活動をとらえるための基礎的知識を身につける。

目標：1）災害看護の必要性について理解できる。
2）災害看護の定義と災害サイクルに応じた看護の役割を理解できる。
3）被災者の心理と援助の必要性について理解できる。
4）日本における国際看護について学ぶ。
5）異文化の中での国際看護活動と看護職に必要な視点を学ぶ。
6）国際協力に対する国際組織・機関を理解する。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1．災害看護を学ぶ意義について<br>2．災害の種類と健康被害、災害関連死について（看護） | 講義<br>グループワーク | 専任教員 |
| 2 | 3．災害に関する法律と政策<br>4．避難所における看護活動と災害要援護者への配慮について | | |
| 3 | 5．被災者の心理・援助者の心理への理解と援助 | | |
| 4 | GW　避難所における看護の役割について | | |
| 5 | | | |
| 6 | 1．災害医療の基礎知識 | 講義 | 看護師<br>DMAT |
| 7 | 2．災害医療の特徴について<br>（考え方、体系的アプローチ、トリアージについて、<br>災害サイクルから考える災害医療、災害医療対応の整備） | | |
| 8 | 3．災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護<br>急性期・亜急性期<br>（初動体制の立ち上げと傷病者の受け入れ<br>救護所の立ち上げと傷病者への対応）<br>静穏期（病院防災と地域医療機関との連携、受援体制の整備） | | |
| 9<br>10 | ・災害訓練を通して「災害時の医療・看護のあり方」について<br>・感染状況により訓練が実施されない場合は、<br>上記テーマについてディベートもしくは、グループワークに変更する | 市立病院の災害訓練への参加<br>又はGW | 専任教員 |
| 11 | 国際看護とは - 国際看護概念枠組み - | 講義 | 外部講師 |
| 12 | 世界の健康課題と取り組み - SDGs における位置づけ - | 講義 | |
| 13 | 在日外国人の健康課題<br>多文化共生社会における看護ケア - 異文化ケア - | 講義 | |
| 14 | 日本の国際協力の仕組み，世界が期待する看護師 | 講義 | |
| 15 | 災害看護：まとめ | 専任教員 | |
| | 単位認定試験（45 分） | 全担当者 | |

評価方法

| 評価種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 筆記試験 | 災害看護　60%(看護師 20%、専任教員 40%)<br>国際看護　40%(外部講師) | 災害看護はグループワーク・レポート・防災訓練参加状況も加味する。 |

受講上の注意

| |
|---|
| 事前学習：　初回授業までに詳細を提示します。 |

テキスト・参考資料

| |
|---|
| 災害看護学・国際看護学（看護の統合と実践③）　医学書院 |

## 科目名：基礎技術の総合評価

**単位および時間数：1 単位　30 時間　（2 年次後期）**

**授業目的および到達目標：**

看護技術は、患者の状態に合わせた援助方法を考えて実践できることが期待されてくる。しかし、1 年次に学習した技術を手順通りに実施するだけでは、実習での応用は難しい。そのため、患者の症状や訴え、治療を考慮し、身体的な状況をアセスメントした上で、安全・安楽な方法を選択し実施できる実践能力が必要となる。

本講では、対象の状態・状況を把握するために必要な知識は何なのか、また援助を実施するために必要な情報は何なのかを考えることから始めていく。そして対象の状態や状況をアセスメントした上で、対象に必要な援助項目や方法を検討し、実施する。実施後は振り返りを行い、グループメンバーとの意見交換を通じて学びを深めていく。

個々の学生が主体的に取り組むことで、アセスメント力の向上と看護技術の実践能力の基盤を築けることを目指している。

| 回数 | 授業内容 | 授業形態 | 担当者 |
|---|---|---|---|
| 1<br>2<br>3<br>4<br>5<br>6<br>7<br>8<br>9<br>10<br>11<br>12<br>13<br>14<br>15 | ・オリエンテーション<br><br>・事例患者に対する援助計画を立案し実施する<br>事例患者の状態・状況を推測する<br>事例患者の状態に応じた援助計画を立案する<br>事例患者に援助を実施する<br><br>・援助実施後にグループメンバーと教員で振り返りを行う<br><br>・振り返りをもとにしたレポート作成 | 演習<br><br>グループワーク | 専任教員 |

評価方法

| 種別 | 割合 | 詳細及び注意 |
|---|---|---|
| 課題毎の提出物<br>姿勢・態度・出席状況 | 100% | |

受講上の注意

事例をアセスメントするために必要な教科書、参考図書は自ら選択していただきます。

テキスト・参考文献

必要な場合は資料を配布します

2 年次：臨地実習

## 科目名：　基礎看護学実習Ⅱ

**単位及び時間数：　2 単位　90 時間（2 年後期）　1 日 6.5 時間　14 日間**

**目的：**
　受け持ち患者の看護過程を展開することで、看護を思考・判断し、実施できる能力を養う。
**実習内容（概要）：**
・受けもち患者を 1 人設定してもらう。
・看護過程は、“ゴードンの機能的健康パターン”のうち「栄養/代謝」「排泄」「活動/運動」「自己概念」の 4 パターンで行う。
・看護介入を考え、指導者とともに実施する。
**評価方法：**
・評価表 90 点：「基礎看護学実習Ⅱ評価表」を用いて、評価日に指導者と面接にて行う。
・リフレクション 10 点：実習最終 2 日間、学内で行う。レポートに表現する。
**担当者：**専任教員
**留意事項:**「令和 5 年度 実習要項」を熟読し、実習オリエンテーションを受けること。

---

## 科目名：　成人看護学実習

**単位及び時間数：　2 単位　90 時間（2 年後期）　1 日 6.5 時間　14 日間**

**目的：**
　成人期の身体的・精神的・社会的の一般的な特徴を理解し、個別的な看護の実践能力を養う。
**実習内容（概要）：**
・成人期の入院患者を受け持つ。（成人期の患者がいない場合、近い年代の患者を受け持つ）
・看護過程は、“ゴードンの機能的健康パターン”のうち「健康知覚/健康管理」「栄養/代謝」「排泄」「活動・運動」「自己知覚/自己概念」「役割/関係」の 6 パターンで行う。
・病態関連図を書き、患者の状態と照らし合わせながらアセスメントする。
・看護計画を立案し、指導者とともに安全・安楽に実施し、評価・修正につなげる。
**評価方法：**
・評価表 100 点：「成人看護学実習評価表」を用いて、評価日に指導者と面接にて行う。
**担当者：**専任教員
**留意事項:**「令和 5 年度 実習要項」を熟読し、実習オリエンテーションを受けること。